

三次市日中友好協会
第七次子ども友好訪中団

交流報告書

2011年5月
三次市日中友好協会

目 次

「報告書」	福本 はづき	2
「中国へ行って見て」	原田 芹菜	3
「日中友好を終えて」	三浦 翼	4
「中国の思い出」	大山 美沙	5
「日中子ども友好訪中団」	坪井 伶香	6
「ホームステイに泊まったこと」	落田 健太	7
「ちゅうごくにいったこと」	小山 桔平	8
「日中友好訪問訪中団で中国に行つて」	敷田 明佳	9
「ホームステイ」	上口 真緒	10
「中国の作文」	鑄鍋 優作	12
「日中友好訪問を終えて」	佐々木 理生	13
「日中友好」	熊谷 耕大	14
「ホームステイ」	皿海 琉	15
「第七次子ども友好訪中団報告作文」	藤原 琳	16
「報告書」	新見 祐樹	17

「報告書」 福本はづき

わたしは中国に行って、とてもいい経験ができたと思いました。特に、「ホームステイ」はいい経験になりました。

ホームステイ一日目の時は、家に着いて最初はじっとソファに座っていたけれど、途中で女の子が話しかけてくれて、そこから話がはずんで自分はあまり中国語は話せなかったけど、英語やジェスチャーを使って会話ができました。中国の観光スポットなどにも連れて行ってもらえて、とても楽しかったです。最後お別れするときは、少し悲しかったけど、短い間仲良くできて、楽しかったです。

もう一つ、とても楽しかったことがあります。それは、中国の方と中国語で会話できたことです。

わたしは、飛行機に乗っている方に、たまたま話しかけられ、「你叫什么名字？」と聞かれ、研修会の時に習っていたので、きちんと自分の名前を答えることができました。

その後、その人といろいろな話をするのができ、とても楽しい会話になりました。中国語は難しかったけど、違う国の人と会話ができることは、すばらしいことで、とても楽しいことだというのが分かりました。もし中国語が話せなくても英語や、ジェスチャーを使って話せるので、とても楽しかったです。そのほかにも楽しかったことはたくさんあります。

例えば、たくさんの中国料理を食べたことや、いろいろな観光地で買い物をしたこと、中国の長い歴史を知ることができたこ

と。すべての時間が私にとってとても楽しく、すてきで輝いているような時間でした。

5泊6日間という短い期間でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができ、うれしく思いました。わたしたちはこの経験を生かして、これから中国のことをもっと学び将来中国へ行くことがあれば、通訳なしでもしゃべれるように、交流できるようになりたいです。それから、日本から一緒に行った訪中団の人たちとも仲良くなれてこれも、私の大切な宝物となりました。

最後に、企画し引率して下さった日中友好協会の方々に感謝しています。

「中国へ行って見て」 原田芹菜

中国へ初めて行きました。初めてで不安でした。でも後になって中国へ行ってよかったなと思えました。私が一番楽しかったのは、いろいろな動物たちを見られたことです。特にパンダがかわいくて見ているだけですごくいやされました。

見ていてビックリしたのがラクダです。思ったよりも大きくてラクダの毛はかたかったです。たくさんの動物が見られてうれしかったです。

日本と変わらないんだなあと思ったのは、中国の人たちの優しさ温かさです。ホームステイで泊まらせて下さったり笑顔がとてもすてきで、なによりその家族は温かかったです。たとえ言葉が伝わらなくても動作で表したり中国も日本も英語を勉強しているので英語を使って伝えることができました。意思を伝えるたくさんの方法があるので、その方法で自分の気持ちや言いたいことを伝えられることを実践しました。でも私は、少ししか伝えることができませんでした。恥ずかしかったので泊まらせて下さった人の質問に答えるだけでした。どうしようとだんだんあせっていきました。でもそれから自分たちのことも書いてくれました。だから安心しました。夜はバスケットをして遊びました。バスケットは大好きだったのでとても楽しかったです。夜ごはんはすごくおいしかったです。辛いものもあったけど辛いのもたくさんありたくさんのごちそうがありました。全部とってもおいしかったです。

次の日、お別れの日が来てしまいまし

た。すごくつらくて悲しかったです。もう会えないんだ…と思い泣きそうにもなりました。たった1日しか泊まっていないのにこんなにつらく、悲しくなるんなんて思ってもいませんでした。最後は笑顔でお別れしようと思ったけどお別れできるのかな？と不安になりました。そんな気持ちでいると泊まらせて下さった家族が私を笑顔にしてくれました。その時分かったことがありました。この世界にいるのならいつか会える。また会ったときは中国語がペラペラ話せるようになって今度はもっとお話しをたくさんしようと思います。それからお別れをしました。笑顔で別れることができました。

日本へ帰る日が来ました。最初は中国のことはあまり好きではなかったけど帰る日には中国のことを大好きになっていました。たくさんの人に出会いたくさんの人にいろいろなことを教えてもらいとっても楽しくうれしくて中国はなんて素晴らしいのだろうと思いました。

日本につき家族に中国のことを話しました。みんなうれしそうに聞いてくれてうれしかったです。中学校に行ったら、「芹菜お帰り。」とたくさんの人たちが言ってくれました。そのおかげで友達ともっと仲良くあることができました。たくさんの人が中国に行き、中国の楽しさすばらしさを知ってもらいたいです。家族や中国の人たち、中国へ連れて行って下さった人たちには、本当に感謝しています。ありがとうございました。

「日中友好を終えて」 三浦翼

僕は、一週間中国、雅安市と上海市に滞在させてもらいました。それで僕は中国に行ってきたたくさん学ぶことができました。

まず、初日は朝6時15分に三次のロイヤルホテルに集合でした。団長の黒瀬さんが皆様方に出発セレモニーをして、いよいよ出発です。バスの中では皆、中国について楽しみそうな顔でした。僕もすごく楽しみです。

一時間後、広島空港に着きました。空港内で水口さんがX線のこととかを詳しく話してくれたので空港、飛行機に乗る手続きの事がよく分かりました。僕は飛行機に乗るのが初めてなので興奮しました。飛行機に乗りました。最初はゆっくりのスピードで滑走路を進んでいき、徐々にスピードが速くなって行きました。その時はすでに重力がかかっていました。でも飛行機が上空へ上がるときはさらにすごい重力がかかったけど我慢をしました。3分くらい我慢して、空はどんなかなと思ってみると全体白くて「何じゃこれー」と叫んでしまいました。その時は家族に見せてあげたかったなと思いました。

中国時間、12時30分に上海空港に着きました。それから高速道路で雅安市に行きました。雅安市は交通規制がちょっと危なくてひかれるんじゃないかと思いました。

二日目は学校訪問に行きました。学校では美人が多くてびっくりしました。各出し物をした後、自由時間がありました。その時、大谷さんが「翼、今が名刺をあげるチャ

ンスだぞ。」と言ってくださいました。その言葉を聞いてすぐに配りました。あげると同時にほっぺにキスされました。ある意味うれしかったです。

三日目は、メインのパンダを見に行きました。生で見てやっぱりパンダはかわいいなと思いました。パンダは自分の手で顔をさわるのがかわいいと思いました。

四日目はホームステイです。パンダを見てホテルに帰るともう来ておられました。さっそく僕はどんな人なのかと思いました。大谷さんが教えてくれました。子が李昶何君でお父さんが李忠明さん、お母さんが何亜輝さんでした。三人ともいい家族でした。すぐに仲良くなってまるで、僕は中国人みたいに会話しました。

その夜は囲碁などをしました。昶何君が強くて負けてしまいました。

ホテルに帰りました。夜は送別夕食会をして、雅安市最後の夜です。もちろんホームステイの子も来ました。会えるのが、最後なのでしっかり楽しもうと思いました。しっかり食べ遊びました。そして、最後別れることになりました。僕は泣いてしまいました。一生に一度の中国での友達だからです。また、会える日があえば会いたいです。

五日目は中国といえば武侯祠を見に行きました。劉備玄德の墓に行ってやっぱり今のおけとちがうなと思いました。理由はおけは鉄でできていたからです。少し歩いていると売り子さんという無理やり買えとおしつける人がいました。全員ほおっておき

「中国の思い出」 大山美沙

ました。帰りのバスではケンタッキー・フライド・チキンとハンバーガー、コーラを食べました。味は日本と同じでした。

六日目は上海ヒルズ101階約492Mのビルに上りました。耳がおかしくなりました。上から見るとやっぱり高かったです。豫園でショッピングをしました。日本でいうと浅草みたいです。いろいろなものを売っていました。

本当に今回、僕にとっては初中国でした。学んだことがたくさんありました。中国の文化などふれたのは、行かせてくれた両親のおかげです。僕たちを無事に日本に帰してくれた日中の人ののおかげです。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

謝謝

私は、中国にまた来ようと思いました。

一つ目は、学校に行ったとき千人くらいの方が歓迎してくれました。最初はすごくはずかしかったです。そして、学校もすごく大きかったので、びっくりしました。

二つ目は、ホームステイで、えらい人の家に行ったので、「私達行っていいの?」と思いました。家の中はすごくきれいでブランコがあったのでびっくりしました。そして、高そうなお店に連れて行ってもらいました。料理がすごく高そうでした。おいしかった。

三つ目は、五つ星ホテルに泊まったことです。中はすごくきれいで部屋の中もすごく良かったです。ベッドもふわふわして気持ちよかったです。

四つ目は、森ビルに行ったことです。見上げると、後ろに頭が落ちそうなくらいすごかったです。だんだん上って外を見てみるとすごく高くて、それに下に見える家の屋根がカラフルだったので中国の建物は「おもしろい。」と思いました。

五つ目は、夜のことで、魚料理の値段が高そうなお店に行きました。すごくおいしかったです。そして最後には、みんなとお別れをしました。ちょっとさみしかったです。わたしは、またこの中国へ行きたいです。そして今回のみんなへ行きたいです。

「日中子ども友好訪中団」 坪井伶香

私は、4月21日から26日までの六日間、日中友好子ども訪中団に参加し、中国に行ってきました。

21日の出発式の時には中国はどんなところだろうかと期待と、友だちはできるだろうかという不安でいっぱいでした。広島空港から、飛行機に乗って中国に行く時の出国審査は、とても緊張しました。

飛行機では、機内食が出ました。私は飛行機は初めてだったので、機内食も初めてでした。窓の外を見ると、空が真っ青で、その下には雲が広がっていて雲の海になっていました。とてもきれいでした。

中国に着いたらホテルに行って、夕食を食べました。最初は料理のお皿がいくつかだけだったのに、しばらくするとテーブルいっぱいにお皿が並べられていて、すごかったです。いろんな料理を食べてみたけど、どれもおいしかったです。

22日には、実験小学校へ行きました。中国の車は、日本と逆で左に運転席があったのが日本と違うなあと思いました。

向こうの学校は、すごい歓迎をしてくれて、とてもうれしかったです。すごい人数で、びっくりしました。中国のみんなの出し物は、どれもすごかったです。

お昼は中学校で食べました。辛いものもあったけど、とてもおいしかったです。なかでもトウガンのスープとブロッコリーがおいしかったです。昼ごはんの後、雅安市雨城区人民政府を表敬訪問に行きました。すごく緊張しました。次に博物館と農大へ行きました。

夜は歓迎夕食会でした。中国の人がたくさん来て、緊張しました。

23日は、まずパンダを見に行きました。距離がすごく近くてかわいかったです。パンダを見に行った後、みんなそれぞれの家庭へ行ってホームステイしました。中国の家は、一戸建てではなく、マンションやアパートが多かったです。家の戸にはシールが貼ってあったりして、きれいに飾り付けがしておりました。家の中は土足で、家用のサンダルがありました。

家では晩ごはんに水ぎょうざを食べて、町でヘアピンやゴムを買ってもらいました。こんなにしてもらって、中国の人はとてもやさしいなあと思いました。

24日には、送別式をして、お世話になった中国の家庭の人たちと別れました。少しさびしかったです。

25日は上海のホテルに泊まりました。とてもいいホテルでした。

26日は、上海を少し観光してから、飛行機で日本に帰りました。中国もいいところだったけど、帰ってきてから改めて日本の良さもわかりました。

「ホームステイに泊まったこと」

落田健太

4月23日に、パンダ保護センターに行った後、張毅強さんの家にホームステイに行きました。張毅強さんの家はアパートでした。中には、しんせきの人の子どもが二人いました。

初めに、みんなで自己紹介をしました。その後、みんなで中国語や日本語を習ったり教えたりしました。中国語は字で書くと全部漢字だったのでほとんど読めませんでした。いろんなことを教えて、晩ごはんを食べました。中国のはしは長かったです。今日の料理は、辛そうなものは全くなくとてもおいしかったです。

次に、一人ずつ踊りや歌をひろうしました。ぼくは、どじょうすくいをしました。ひろうして、お風呂に入りました。お風呂はトイレと通じていて、洗面台で頭や体を洗ったので、初体験しました。お風呂に入ったらベッドで新見君と寝ました。

四月二十四日に、五時半に起きて、白玉の入っただんご汁を食べました。とてもおいしかったです。初めに、朝の支度をして、大学へバトミントンや卓球などをしに行きました。子どもとバトミントンをしていたら、10歳の子どもが来て一緒にバトミントンをしました。すごく楽しかったです。バトミントンをしていたら、フリスビーが飛んできたので、バトミントンはやめて、みんなでフリスビーをしました。フリスビーをしていたら、買い物に行っていたお母さんが水や食べ物を買ってきてくれました。食べ物もすごくおいしかったです。

アパートに帰って水ギョウザを作ってみんなで食べました。僕は辛くないほうのタレじゃなくて、「酢」のタレをつけて食べました。食べたらさよならを言って大学へ卓球とバトミントンをしに行きました。とても楽しかったです。

次に、スーパーへ行って、中国のいろんなお菓子をかごに入れました。お金ははらおうとしたら、お父さんが全部おごってくれたので、とてもうれしかったです。

最後に、ホテルへもどって、送別夕食会をして、ホームステイでお世話になった人と、最後の時を過ごして、張榕博君と最後のお別れをしました。その夜は、とても楽しかったし、少しさみしかったです。ぼくは、中国のアパートでは、中でもくつをはいてテレビなど見るのを初めて知りました。また中国に行きたいです。

「ちゅうごくにいったこと」

小山 桔平

4がつ21にち はれ

ひこうきにのって、ちゅうごくにつきました。とてもじかんがかかったので、つかれました。ちゅうごくとにほんがちがうところは、ちゃばたけがあることと、くるまがみぎがわつうこうをしていることでした。

4がつ22にち はれ

じっけんしょうがっこうへいきました。いっぱいのもだちがあつまってくれていました。ぼくは、かぐらをまってみてもらいました。みんなとてもよろこんでくれたので、うれしかったです。たくさんのもだちができました。

4がつ23にち はれ

パンダをみにいきました。ぼくは、はじめてパンダをみました。たくさんいるかとおもっていたけれど、たったの9とうでした。パンダにふれあうことをたのしみしてはいたけど、できなかつたのでざんねんでした。

ゆうがたから、ホームステイにいきました。イ・ハオランくんという、ぼくとおなじいちねんせいのともだちがいました。いっしょにおりがみをしたり、めいろをしました。ことばはわからなかったけど、すぐになかよくなれました。

よる、ばんごはんをみんなでたべるとき、いえがこいしくなつてなみだがたくさんできました。ハオランくんのおかあさんが、ごはんをたべさせてくれました。やさしくしてもらつて、ぼくはえがおになりました。

4がつ24にち はれ

ハオランくんのかぞくといっしょに、もうちょうざんへのぼりました。おちゃばたけがいっぱいありました。とてもたかいやまだつたので、くたくたになりました。おちゃをいれるおどりがたのしかつたです。

よる、そうべつかいをしてもらいました。きよねんなかよくなつたちゅうごくのともだちヤンくんにあうことができました。とてもうれしかったです。

ちゅうごくで、たくさんのおもいでができました。またみんなにあいにいきたいです。

「日中友好訪問訪中団で中国に行って」

敷田明佳

私は中国に行って、楽しかったこと、学んだことがいっぱいあります。楽しかったことは五つあります。

一つ目は、歓迎夕食会の食事です。食事は辛かったけど、食文化の違いがよく分かり、とてもおいしかったです。特にチンジャオロースが少し辛くて日本の味と違いましたが、おしかったです。

二つ目は、学校訪問での発表です。実験小学校はとても人数が多くて、ステージに着くまで、出し物やあいさつが心配で、緊張して、間違えないか心配でした。

でも、ステージに上がり、実験小学校の皆さんの温かい声援で、あがらずに、どちらもスラスラ出来ました。終わった後の名刺交換も、とても楽しかったです。

三つ目は、パンダ保護センターの訪問と、ホームステイです。パンダ保護センターで一番楽しかったところはパンダ幼稚園です。私は中国に行くまで、本物のパンダを見たことがなかったので、子どものパンダが、ぬいぐるみが歩いているみたいでかわいかったです。いままであまり関心がありませんでしたが、とても好きになりました。

ホームステイでは、中国の夜の街に行ったのが楽しかったです。ホームステイした家の人や街の人と会話をするのが大変だったけど、とても親切にしてくださったのでとても嬉しかったです。また、家の部屋に日本のアニメキャラクターのポスターがあったので、よく見ると、そのポスターの文字は中国語でした。なので私は、中国語

でしゃべっている日本のアニメを見てみたいと思いました。日本の子ども達と好きなアニメは同じでした。

翌日は、朝ご飯を食べて、昨夜の街に行きました。少し行くと大きな建物があり、待っていたら、約束をしていた鑄鍋くんと三浦くん達がきたので、遊びに行きました。

最初に山に行きました。山は高く、登るのが暑くてとても大変でした。途中あった山小屋で休みました。でも、みんな体を休めず、近くにあったブランコに乗ってあそんでいました。

もう少し上に登ると建物があって、その少し登った所で休けいをしました。その建物にトラックが入ってきました。何をしているのかな、とっていると、変ななき声が聞こえてきたので坪井さんと見てみると、丸々と太ったブタが乗せられてトラックが出てきたのでなんだかかわいそうでした。

山頂に登ると、景色が遠くの町まで見えてすごくきれいでした。

その後、お昼ご飯を食べに行きました。お昼ご飯を食べたお店は外にあり、とてもすずしくて気持ちよかったです。料理もとてもおいしかったけど、やっぱり辛かったです。

その後、鑄鍋くんと三浦くんが泊まった家に遊びに行きました。この家では囲碁を使って五目並べやオセロ、おはじきなどをやりました。私は五目並べを初めてやって、とってもむずかしかったです。私は、中国の人ともやったけど、負けてばかりでし

た。でも、とても楽しかったです。

その後、家に帰って、少しだけ折り紙を作りました。とても上手で、すぐに作っていただいたのですごかったです。

別れる時はさみしかったけど、とても楽しい思い出ができたのでとてもよかったです。

四つ目は、武侯祠です。私は三国志をよく知らなかったけど、武侯祠に行くと、三国志のことがとてもよく分かりました。今度は、本を読んでみたいと思います。

五つ目は、豫園とモリビルです。豫園にはとてもきれいな物や中国らしいものが売ってあり、めずらしいものばかりでした。

モリビルは、とても高くてびっくりしました。でもほかの建物も日本と比べて大きかったので、東京タワーより低いように感じました。もしも三次にもりビルのような高い建物があると、すごく高く感じるだろう、と思いました。

今回の中国への訪問では、日本の文化や食事の違いなど知ることができました。でも、いろいろなことが違って親切にしてください、中国の人と仲良くなれたことがとてもうれしかったです。

これから、この経験を生かして、中国の文化や人々のやさしさなどを伝えていきたいと思います。そして、私も中国の方が日本に来られた時は、中国でもらったことと同じ様に、できることをしていきたいと思います。

「ホームステイ」 上口真緒

ホームステイ一日目

中国に来て、三日目の夕方、一泊お世話になる親子と会いました。子どもの名前は、『雪ちゃん』です。少し張さんに手伝ってもらって話をし、花束をわたしました。私たちのグループは、大山さん、福本さんの三人です。

それから車に乗りました。ホテルからは、けっこう近いので、ほかの人たちに会えるかなと思いました。

家は、アパート的な感じでしたが、部屋の中はすごい広くて、家の中なのに、バラがからまっているブランコがありました。そしてお手伝いさんもいました。

しばらく話していると、お父さんが中国語で何か話して、雪ちゃんが外に出て行ったので、私たちもついていきました。

歩いて二分くらいの所に、女の子と男の子がいました。それから一緒に歩いていくと、大きな建物がありました。エレベーターで上に行くと、部屋があり、回るものが置いてあり、初めて晩ごはんだと気づきました。

辛いものはなさそうだったので、一番不思議な緑色でゴマがふりかけてあるのを食べました。甘くて、サツマイモみたいでした。それからお父さんやお母さんのおすすめでいろいろ食べて、三十分後、ソファで写真撮影をしました。

大山さんにとってもらいました。男の子がとびはねているのにうまくとっていました。いっぱいだったので、帰りました。途中、パン屋さんで、雪ちゃんとかと一緒にケー

キを選びました。バラが生クリームですごく良かったです。スプレーもすごく良かったです。

家に着くと、すぐにお風呂に入って、明日の時間を聞いて、ベッドの所へ行きました。ベッドもごうかでした。色々話していると、大山さんが寝ていたので私たちも寝ました。明日がとても楽しみでねむれませんでした。

ホームステイ二日目

今日は、ホームステイ二日目でした。朝ご飯はケーキとパン、そのほかミカンや卵とイロイロありました。大山さんたちもパンだけで十分おなかいっぱいの様子でした。でも、お皿にケーキをのせていたので、食べないわけにもいきませんでした。

お腹いっぱいになって、雪ちゃんたちと外へ行って車に乗りました。車で三十分ぐらいの所へ着いて、そこからロープウェイで上に行きました。上に行けば行くほどスリル満点でした。

上に着いて、めずらしそうな石や建物やおき物を見ました。お父さんやお母さんが、紙に書いて教えてくれました。いどを見たのが印象的でした。

広場へ行くと、大谷さん、小山さん、昌ちゃんのグループがいました。私達もそこでヒマワリの種とポップコーンを食べていたら、雪ちゃんがお土産をくれました。「シエシエ」と言おうとしたら、いきなり音楽が流れました。近くへ行くと、男の人がやかんで芸をしていました。ずっと見ていたけど、こぼしてなかったのですごく良かったです。十二時半ぐらい広場にいて、歩いて下

におりました。

最後の段は足ががくがくでした。また車に乗って今度は昼ご飯を食べに行きました。次のお店は辛いものがいっぱいでした。水がいるような辛さなのに、三人以外ぜんぜん飲んでいなかったのですごく良かったです。

食べた後、また色々見て、三時くらいになった時アイスをもらいました。冷たくておいしかったです。帰るときは、ほかの人とはお別れで雪ちゃんと一緒でした。

ホテルに着いた時、大山さんは泣いていました。今夜にも会えると聞いて、やっと泣き止みました。雪ちゃんも部屋に来ました。

お父さんやお母さんはバイバイして帰って行きました。初めてのホームステイは楽しかったです。夜が楽しみでした。

「中国の作文」 鑄鍋優作

まず、ロイヤルから広島空港までバスで直行しました。その時僕はワクワクの気持ちでいっぱいでした。そこで三浦君と、中国はどんな国か予想とかをしていました。

そして、広島空港について、いろいろな所を写真にとったりしていました。チケットをもらい、飛行機に乗るのも初めてなので、ドキドキした気持ちでいっぱいでした。飛行機に乗り出発した時がおもしろくて、外を見ると絶景で感動しました。飛行機の中はたいくつでした。

そしてついに、お待ちかねの中国に着いて三浦君といろんなことを話しました。例えば、「中国は交通ルールがわるいね。」などを話しました。

そして、ホテルに着き、友達もできました。お風呂にみんなで入り、ベッドに寝ました。そして、次の日になり、みんなに起こされました。

そして、ホテルを出発し、ぼくは「第7中学校」に行き、大歓迎をされ、ぼくはちょっといい気分になり、踊りなどもすごく、とても驚きました。そして、日本のほうからも、出し物をみせたりして、写真を一緒にとりました。

そこで昼ごはんをたべました。おいしかったし、からかったです。そこから、またホテルへ帰り、歓迎夕食会でいろいろ中国の人と、交流を深めたりもしました。きっぺいくんの、神楽もすごかったし、どじょうすくいも、おもしろかったです。

そしてまたみんなで、お風呂に入り、テレビなどを見たり、動画もとったりしまし

た。そして疲れ果て、ベッドで寝ました。

そして次の日、朝起きてきっぺいくんとそのお父さんと三浦くんと皿海くんとみんなと、散歩をしました。それからそのまま、朝ごはんを食べに行き、肉まんが、日本と違ってすごくおいしかったです。

そこからホテルを出発し、パンダを見に行きました。

日本と違うところは、黄砂が多いことと、交通ルールが悪いところです。でも、料理はおいしくて辛かったです。

パンダ保護センターに着き、パンダを見ました。でもぼくの想像より小さかったです。そこでお土産も買ってホテルに帰りました。

そこで、ホームステイをする家庭に行っている交流を深めました。月曜日には、成都空港から上海浦東空港に行き、空港から上海の街の中心に行くため、初めてリニアモーターカーに乗りました。速かったです。

そのホテルに泊まり、明日になったらとうとう帰る日になり、ちょっとさびしかったです。そして飛行機に乗り、帰りました。

「日中友好訪問を終えて」 佐々木理生

私は日中友好訪問をして楽しかったことが三つあります。

一つ目は、学校訪問です。学校に行った時、楽器を吹いて大歓迎してくださったのでとてもビックリしました。近所の人も集まってくれて、そんなに日本人がめずらしいのかなと思いました。とても人数が多くてあまり笑顔で手をふれなかったけど、すごい歓迎でうれしかったです。前に出て座った時、一、二年くらいの女の子が手を振ってくれていたの、手を振ったら笑顔で何度も手を振ってくれたので、言葉は通じなくても心は通じるんだな、と思いました。出し物は、全部すごかったです。特にバイオリンが無茶苦茶上手でした。英才教育なんだな、と思いました。

二つ目はホームステイです。家が、見た目はふつうのマンションなのに、中に入るとすごくきれいでひろかったのでびっくりしました。

漢字で会話をしようとしたけど、意外と通じなかったの、英語で何とか話しました。夜にバスケットボールをしに公園に行きました。スポーツは、世界共通のルールなので、遊びやすかったし楽しかったです。会話では、スポーツと学校のことが一番通じました。

ホームステイの二日目は、雅安の街を歩きました。たくさんかわいいペンや小物があって日本と変わらないな、と思いました。特にアニメグッズは日本よりあったのでびっくりしました。値段も安いのでたくさん買ってよかったです。ホームステイが

終わって別れる時、とてもさみしくてもっと一緒にいたいと思いました。

三つ目はパンダセンターです。パンダに会ってみたかったので会えて、とってもうれしかったです。それに、日本のようにガラス越しではなく間近に見られて良かったです。大きいパンダを二頭見て、笹を食べる姿がとてもかわいかったです。小さいパンダはたくさんいて、段を必死に上っているのがかわいかったです。段から落ちた時、何事もなく水を飲みに行ったのが面白かったです。パンダセンターは絶対、また行きたいです。

私は、日中友好訪問団で中国に行けて、中国をとっても好きになりました。テレビなどでは中国の人を悪く言うけど、そういう人はほんの一部で、本当はとてもいい人ばかりでした。とても親しみやすく、優しい人ばかりでした。私は、みんなに中国はとてもいい国だと伝えています。

この訪問団に参加してよかったです。そして、また中国に行きたいです。

「日中友好」 熊谷耕大

出発の当日の早朝、三次グランドホテルに集合し、バスに乗り、ぼくと藤原くんと2人で後部座席にすわった。朝の6時半集合だったので、バスの中ではとても眠く、ボーッとしているうちに空港に着いた。するとすぐに、荷物を持って空港内に入り、機内に持ち込むものと持ち込まないものに分けたり、持ち込み不可能なものが入っていないかなどをチェックして、荷物をX線を通し、パスポートを見せて、飛行機のチケットをもらい、自分もX線を通して、危険物を持っていないかチェックされました。そして搭乗待合室で待っていると、免税店がありました。ここは日本なのに、税金がかからないのは不思議に思いました。聞いてみると「ここは国外なんだよ。」と言われました。意味不明でした。そうしていると、飛行機に乗る時間がきたので、飛行機に乗ると、すぐに飛ぶのかと思っていたら、三十分くらいしてから動き出しました。すると、大谷さんから、「時計を一時間遅らせて。」と言われたので、時計を遅らせました。外の写真をとっていると、機内食が運ばれて来ました。おいしくいただきました。それからしばらく、機内で流れていた中国語のテレビを見たりしていました。すると、飛行機の動きが変わったので外を見ると、中国の上空にいました。しばらくすると着陸の態勢に入り、降下して、飛行機の足が着きました。飛行機から降りると、パスポートを見せて入国審査を受け、入国しました。そして、ようやく中国に着きました。ここでぼくが応募した5つの感想を書きます。

一つ目、日本以外の国に行ったことがな

かったから、中国に行っているいろいろなことを知りたい、見たいということについて。ぼくは、中国で見て、一番印象に残ったのは、交通ルールの悪さ、道などに落ちているごみの多さです。あと知ったことは、中国の物はとにかく安いこと、車はほとんどが高級車だということです。

二つ目、パンダに会えることについて、パンダはよくテレビなどでは見ていたが、生で見ると、かわいさが全然違いました。笹を食べるところ、歩いているところ、水を飲んでいるところ、すべてがかわいかったです。さわることはできなかったけど、会えてよかったです。

三つ目、家庭ホームステイがあるところについて、ぼくは結局一人でホームステイすることになって、日本人が恋しくなりましたが、とても楽しい一泊二日でした。

四つ目、星月賓館というホテルに泊まれるということについて、星月賓館は、とても広くてびっくりしました。部屋の中も広く、とても清潔で、安心して泊られました。さすが雅安市で一番のホテルだと思いました。残念ながらホテルで飼われている犬はいませんが、とても良いホテルです。

五つ目、リニアモーターカーで移動することについて、二回乗ったけど、二回とも最高時速の四三〇キロが出て、あっという間に目的地についてビックリしました。

以上、五つの行きたい理由の感想でした。それと、六日間ずっと一緒にいた友達と、いきなり離れ離れになってなんだかさみしい感じがしました。

「ホームステイ」 皿海琉

ぼく達は、四月二十一日から二十六日までの六日間、四川省の雅安市雨城区に行ってきました。その中で特に心に残っていることは、ホームステイです。ぼくは、兄といっしょに楊君の家に泊まりました。初めは、自分の意思が伝わるかどうかとても不安でした。しかし、楊君の方から、笑顔で迎えてくれたので、少し安心しました。

楊君の家に着いて、自己紹介しました。自己紹介が終わると、昨年ホームステイに来てくれた居君の写真を見せてくれたり、家の中でバトミントンをしたりしました。兄と楊君は、とても続いていたので、すごいなあと思いました。バトミントンが終わったあと、散歩に連れて行ってくれました。ろう橋やビル、マンションが、ライトアップされていてとてもきれいでした。ほかにも銅像のある公園に行きました。散歩をしている途中、英語を使いながら、日本語を教えてもらったり、中国語を覚えたりして、とても仲良くすごせました。ぼくは一番小さい子と仲良くなりました。散歩の終わりでとても仲良くなった子と別れました。その時は悲しかったです。

こうして、ホームステイ二日目がありました。朝に荷作りをして、観光に出かけました。その時、一番仲良くなっていた子も来て、いっしょに観光に行きました。その時は、とてもうれしかったです。観光に行ったのは蒙頂山という場所に行きました。そこには、とても広い、見わたす限りの茶畑が広がっていました。ぼくは、さすが中国だなと思いました。

ロープウェイで上まであがると広場になっていて、やかんの入れ口が細長いものを使ってコップにお湯を入れるおどりのようなものをしていました。中国では、お茶をいれるおどりもあったのでおどろきました。お茶のおどりを見たあとに、中国の歴史がわかる博物館のような所へ行きました。そこには、日本と中国の歴史が表示されてありました。楊君は、ぼくに英語を使って表示されていることを伝えてくれました。そこを出ると、蒙頂山で、写真を撮ったりしました。そして、観光が終わると昼ご飯を食べに行きました。中国の人も、辛くないものばかりをたのんでくれたので、食べやすかったです。

昼ご飯を食べ終わると、バトミントンをする施設に行かせてもらって、いっしょにバトミントンをしました。楊君のお父さんとぼく、楊君と兄、というチーム分けでした。点をとられた時は、くやしかったけど、ぼくが点を入れた時は、拍手をしてくれたので、うれしかったです。

いつの間にか時間がたって、施設を離れる時間になりました。お土産に、ひまわりの種と干したワラビをもらいました。ホテルに着いて別れる時間になると、とても悲しくなりました。楊君と別れる時には、またお会いしましょうと言いました。

ぼくは来年、楊君が、自分の家にホームステイに来てほしいなと思いました。

日中友好協会に入って、ちゅうごくに友達もできたので、とてもよかったなと思いました。

「第七次子ども友好訪中団報告作文」

藤原琳

私が、雅安に来て初めて思ったことは、空気が黄色いということでした。それは、黄砂で日本のものとは比べ物にならないくらいでした。

さて、私が雅安に来て一番の目的は何と言っても雅安の子どもたちとの交流をすることでした。

そして楽しみにしていた学校訪問では、たくさんの生徒に歓迎され、出し物を出し合ったり、写真を撮ったりして、とても仲良くなれました。しかし、それ以上に仲良くなったのが、ホームステイ先の子どもの楊君でした。

彼とは、中国語の本を用いて話をしたり、筆談をしたり、英語で会話しました。それでも通じないときは、ジェスチャーを用いて会話したこともありました。そして、時には、私が楊君に日本語を教える場面も何度かありました。

そして、次の日はお茶で有名な蒙頂山に行きました。そこでもロープウェイの上から茶畑を見ながら上がりました。そしてロープウェイから降りてお茶を飲みながら楊君といろいろな話をし、時にはお茶の説明をしてもらいながら仲良くなることができました。

そして、その後は、昼食を食べ、バトミントンのできる体育館でバトミントンをしました。一対一でやったり楊君とダブルスを組んだりして体を動かしました。ここで思ったのが、やはりスポーツは言葉は通じなくても心が通じ合えるものだという事

でした。楊君とはいろいろなことを教えてもらい、そして教えて本当の友人になれたと思います。

さて、ここからは、日本と中国、雅安との違いについて、私が一番の違いだと思うことが食事と買い物です。まず、食事は、四川料理と言って雅安でも辛い料理で有名ですが、ただ辛いだけではなく、辛さの中にも旨みがあり、時にははしが止まらなくなるほど、パクパク食べてしまうものもありました。

次は、買い物です。日本では、商品に値段が決まっており、その値段でしか買えません。しかし、中国では、交渉の方法によっては、半額やよい時には七、八割もまけてくれます。買い物での交渉も中国では、一つの楽しみになりました。

そして、最後に私は、世界にはいろいろな国や文化があり、いろいろな人がいて、いろいろな料理が食べられている。そして、そこには、いつもたくさんの人々のやさしさがあって、笑顔があることを知りました。私は、これから中国以外にもいろいろな国に行き、その国の文化を楽しみ、そして中国で作った友人とまた、いろいろな交流を続けていき、またいつか会えれば良いなと思っています。

「報告書」 新見祐樹

一日目、ぼくは初めて飛行機に乗りました。乗る前に、いろいろな検査を受けました。スーツケースのX線検査、手荷物検査などさまざまでした。スーツケースのX線検査、手荷物検査などさまざまでした。ぼくは、これだけの検査をするには、とても金がかかるだろうが、安全のための重要な仕事なのだと思います。

飛行機に乗って飛び立つとき、ふわっとしてびっくりしました。こんな大きな物をお手軽に空に飛ばすことのできる人間はすごいと思いました。

上海浦東国際空港から乗った国内線の中でぼくは中国の女の人のとなりの席でした。その時に、ぼくと翼くんは、本や手を使い、いっしょうけんめい日本の事、とくに福島原発や東北地方の地震のことなどを話しました。少しですが、話が通じたのでうれしかったです。そして、ホームステイで話をする自信ができました。

成都空港では、雨城区人民政府の方々の出迎えがあり、高速道路で雅安に行きました。高速道路はとても広々していて、とても速いスピードでみんな走っていったので、中国の力はすごいと思いました。

ホテルに着くと、夕食を食べました。料理はとても赤くて、とても辛かったので、なかなか食べられませんでした。しかし、どの料理もとってもおいしかったです。

二日目、この日は、学校を訪問しました。ぼくは、実験小学校に行きました。バスで校門に着くと、子どもたちが、いろいろな楽器で出迎えてくれました。ぼくらは全校

の真ん中を歩いて前にすわりました。川西小学校とは比べ物にならないほどの規模でした。

訪問がおわると、区長さんにあいさつをしに行きました。しかし、大人の話ばかりだったのであまりおもしろくありませんでした。

三日目、今日はまず、パンダ保護センターに、パンダを見に行きました。センターに行くまでの道は、山と山との間をすりぬけるように通っていったので、よくこんな所に道をつくることのできたなあとびっくりしました。センターの中に入るとすぐ道にラクダが2ひき横たわっていました。バスからおりてラクダの近くによっても、何もみませんでした。毛をさわってみると、とてもかたかったです。

ついにパンダがいる所につきました。ここからは、一ぱんの車は入れないところまでバスが行き、パンダ保護センター入り口で降りて、パンダのいる所まで歩いて向かいました。二十分くらい歩くとパンダが何びきもいました。木に登ろうしたり、水を飲んだりしてとてもかわいかったです。

午後からは、分かれてホームステイをしました。中国の家では、部屋の中でもねる時以外はずっとくつをはいていなければならないので、とてもたいへんでした。しかし、家の子どもとは、たくさん話をして、たくさん笑いました。ふろに入ろうと思ったら、ちゅうごくにはシャワーしかなかったんです。しかも、ふろの床にトイレがあって、そこから水をはい水する仕組みだった

ので、日本のふろの方が、ぜったいかいてきだと思いました。

四日目、この日はまず、家族の人たちと、バトミントンやたっきゅうをしにいきました。ぼくはとても弱かったのですぐに負けました。

午後は、ショッピングをしに行きました。店には、日本で売られているようなものがたくさんあってびっくりしました。

五日目、この日は上海へ行く日です。政府の人が見送りをしてくださいました。上海の空港からは、リニアモーターカーに乗りました。日本では考えられないスピードでびっくりしました。夕食は、海鮮だったので、とてもおいしかったです。

六日目、この日は、帰国する日でした。まず、豫園でショッピングをしました。でも、あまりほしい物がなかったので、何も買いませんでした。

次に上海ヒルズに行きました。百一階はすべてガラスばりだったので、遠くまで見ることができました。

上海から飛ぶ時、ぼくは、中国からおさらばかと思いました。とても楽しい六日間だったので、二年後また来ようと思いました。

